

鬼北町立広見中学校

道徳通信

道徳主任 酒井 智有

NO. 82

令和8年7月15日発行

よりよく生きる

3年生道徳授業の紹介「生きてこそー石井筆子の生涯ー」（読み物資料）

【資料のあらすじ】

石井筆子は、わが子に重い知的障害があったことをきっかけに、障害のある子どもたちが安心して学び、生活できる場所が必要だと強く感じます。当時は障害のある人への理解が乏しく、周囲の反対や経営の苦しさなど多くの困難がありました。それでも筆子は決してあきらめず、一人一人の命と可能性を信じて教育や福祉に尽くしました。子どもたちが生き生きと成長する姿を支え続けた筆子の生涯から、「すべての命には価値があり、人のために信念を持って生きることの大切さ」を学ぶ物語です。

筆子は、何度も苦しみに出会いながらも、なぜ前を向いて生き続けることができたのだろう？（生徒の意見）

- ・学園を守っていくと決めたことと、子供たちを守っていきたくて思ったから。辛いことがこれから先たくさんあるかもしれないけど、明るく生きていこうと思ったから。
- ・周りの人がたくさん亡くなっているのに、自分は生かされていると考えたとき、そこには意味があって、やるべきことがあるんじゃないかと思ったから。
- ・自分の選んだ道だから、自分を信じて進まないといけない、諦めないという強い気持ちを持っていたから。

今日の学習を通して、「信念」とはどのようなものだと思うか。それを踏まえて今日の学習で学んだことや感じたことを書こう。（道徳ノートより）

- ・もし、苦しいことがあっても、自分を信じて進んでいくことだと思う。どんなにつらい状況でも、一人じゃないと思った。過去は変えられないけれど、未来のために自分たちにできることをしたいと思った。もし、自分が追い込まれ、苦しい状況でも、無理をせず、自分のペースで歩いていきたい。困ったら、一人で抱え込まず、たまには周りの大人たちに助けを求めるのもよいかなと思った。
- ・僕は今日の授業で、何度も何度も悲しみがおそってきて、筆子さんはつらかったと思うけど、気持ちを切り替えて前向きに生きていて、僕も筆子さんみたいに前を向いて生きていこうと思いました。僕は、嫌なことがあったらすぐに諦めてしまうことがあるので、どんなことでも諦めずに挑戦していきたいと思いました。また、今自分の命があるのは、たくさんの方がつないでくれた命なので、命の大切さも同時に学ぶことができました。筆子さんは子供たちを守りたいという思いが強かったので、何度も苦しみにあっても、前を向くことができたのだと思います。僕も日頃から勉強などの努力を忘れず、最後までやり遂げられる人になりたいと思いました。

石井筆子さんは、多くの困難に直面しても、一人一人の命にはかけがえのない価値があると信じ、障害のある子供たちのために生涯を尽くしました。その生き方から、私たちは、相手を尊重し、自分の信じることを大切にしながら行動することの尊さを学ぶことができます。これからの生活でも、一人一人を大切にし、誰もが安心して生きられる社会をつくるために、自分にできることを考え、実践していくことが大切だと感じました。